

韓国農林畜産食品部プレスリリース 2020年2月17日付

## イノシシ ASF 拡散遮断のため広域フェンス設置現場点検および関係機関防疫会議開催

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGbwFmcmElMkY2OCUyRjMyMjcyNSUyRmFydGNsVmllcy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTNEJTI2aXNWaWV3TWluZSUzRGZhbHNlJTI2cmZzRW5kZGVtdHllM0QlMjZwYWdlJTNEMSUyNmJic09wZW5XcmRTZXE1M0QlMjZyZ3NCZ25kZVN0ciUzRCUyNnNyY2hXcmQlM0QlMjZwYXNzd29yZCUzRCUyNnNyY2hDb2x1bW4lM0QlMjZyb3clM0QxMCUyNg%3D%3D>

□中央事故収拾本部長(キム・ヒョンス農林畜産食品部長官、以下“中収本部長”)は、今般、華川郡(ファチョンゲン)広域フェンス外でASFに感染したイノシシが発見されたことを受け、2月14日、広域フェンス設置状況を点検し、関係部署・地方自治体と防疫対策を議論した。

□現時点において、イノシシでのASFは199件発生しており、華川(ファチョン)では、現在までに64件の感染個体が発見されている。

\* 坡州(パジュ) 51,漣川(ヨンチョン) 63,鉄原(チョルウォン) 21,華川(ファチョン) 64

○2月7日、広域フェンス外の華川郡(ファチョンゲン)看東面(カンドンミョン)の生きたイノシシからウイルスが検出され、その後、死体からも感染が確認されている。

○これに伴い、2月10日、中央捜査本部は、華川(ファチョン)-昭陽江(ソヤンガン)-麟蹄(インジェ)間を連結する3段階広域フェンスを設置するなどイノシシ管理のための追加対策を発表した。

□キム・ヒョンス、中収本部長は華川郡(ファチョンゲン)の既存広域フェンス設置現場と自然境界区間の補完事項、3段階広域フェンス設置場所などイノシシ管理対策推進状況を点検した。

○まず春川市(チュンチョンシ)新北邑(シンブクウプ)の昭陽江ダム近隣の3段階広域フェンス設置場所を訪問し、環境部に迅速な設置を依頼した。

-環境部は遅くとも2月22日までの3段階広域フェンス設置完了を目指している。

○次に華川邑(ファチョンウプ)で1段階広域フェンス設置現況を点検し、自然境界中に位置した村にイノシシが侵入しないよう、村の後方に迂回するフェンスを設置・補完するようにした。

-環境部は、地形地物を活用した自然境界区間補強工事を2月16日までに完了させる予

定である。

□現場点検後、華川郡庁状況室において環境部、国防部、国務調整室、国防部、江原道庁、京畿道庁、華川郡庁など関係機関と共に華川郡庁状況室で機関別防疫推進状況と対策を議論した。

○環境部はイノシシの南下・東進遮断のための広域フェンス設置方案を報告した。

-まず南方限界線と3段階広域フェンスを連結する‘楊口（ヤング）終端フェンス’を設置し、春川（チュンチョン）から麟蹄（インジェ）までを区画化することによって東進を最大限遮断する。

-また、イノシシの行動半径を縮小するために既存1段階広域フェンス内4個の市・郡(坡州（パジュ）・漣川（ヨンチョン）・鉄原（チョルウォン）・華川（ファチョン）)に7個のフェンスを設置し、合計10個の圏域で区画化して管理を強化する計画。

-華川（ファチョン）ダム下流区間、華川（ファチョン）東側1段階広域フェンス区間などの村、河川と同じ地形地物を活用した自然境界区間に対するフェンス補強設置も2月16日までに完了する。

○中収本部長は‘楊口（ヤング）終端フェンス’を2個設置し、イノシシ東進遮断を強化して、華川（ファチョン）地域だけでなく1・2段階広域フェンス全般の自然境界区間を入念に点検し、補強するよう要請した。

-特に道路とフェンスが接する地点には、なるべく二重にフェンスを設置し、イノシシが渡っていかないようにして、

-死体搜索を広域フェンス南側と東側、広範囲に実施する必要があることを強調した。

-フェンスが迅速に設置されるよう、発生地点に近いところから段階的に設置したり、複数チームを同時に投じるなどの方案を講じる。

-関係部署・地方自治体・民間専門家が共に点検班を構成し、既存フェンスを一斉点検する。

-3段階広域フェンス設置予定地域南側区間は‘遮断ベルト’として設定し、猟師を投入し、遮断ベルト南側から北へ向かうように銃器捕獲を実施することによって、イノシシの南下を遮断する方案も検討するよう依頼した。

□地域別危険度を考慮し、地域ごとに差別化された農場単位防疫措置を推進する。

○ASFが農場で伝播しないようにするために最高水準の防疫措置\*を実施中である京畿（キョンギ）・江原（カンウォン）北部圏域(339戸)は現水準を今後も維持する。

\* 境界地域の集中消毒・臨床検査後の圏域内に限定した家畜およびその糞尿の移動・圏域内限定運行する畜産車両の指定・農場警戒所運営・毎日の電話予察

-特に華川郡のイノシシでのASF検出地域半径10km内の6農家に対しては、中央点検班による点検と農場周辺環境試料検査を週1回実施して、忌避剤を既存の2倍以上設置す

るなど管理を強化する。

\* 鉄原 (チョルウォン)・華川 (ファチョン)・抱川 (ポチョン) のイノシシ検出地域半径 10k m 内農家 87 戸は、精密検査後に指定屠殺場出荷および糞尿移動など移動制限措置中

○京畿 (キョンギ)・江原 (カンウォン) 南部圏域(22 個の市・郡、968 戸の農家)は強化された防疫措置\*に対する点検と予察をより一層強化する。

\* 農場進入路、周辺道路など毎日消毒、糞尿圏域の外移動禁止、臨床検査後に指定屠殺場へ出荷、月 1 回屠殺場などに対する環境試料精密検査など

-地方自治体 ASF 担当官が 2 月 21 日まで養豚農場の防疫実態を点検し、3 月からは中央点検班(農食品部関係官)が確認点検を実施する。

-電話予察の頻度も、月 1 回から週 1 回に増やし、農場周辺でのイノシシ出没の有無、疑い症状の有無などを確認する。

○京畿 (キョンギ)・江原 (カンウォン) 北部 14 の市郡と隣接した南揚州 (ナムヤンジュ)・加平 (カピョン)・春川 (チュンチョン)・洪川 (ホンチョン)・襄陽 (ヤンヤン) 5 個の市郡(57 戸の農場)は、農食品部と検疫本部、地方自治体合同点検班がフェンス設置、生石灰塗布など防疫実態を直接点検して、以後地方自治体で毎週点検する。

□キム・ヒョンス、中収本部長は地方自治体に対し、猟師と捜索隊、イノシシ死体発見者の徹底的な消毒、農場フェンスの設置、手洗い、長靴の履き替え、山止めなど、防疫規則遵守が徹底的に履行されるように必要な点検と教育を積極的に行うよう依頼した。

○国防部にも民間制限線と DMZ の門を出入りする車両と人に対する消毒を徹底するよう要請した。

以上